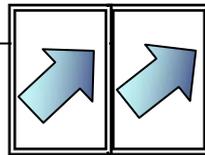


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（4月28日時点）～

国内景況感

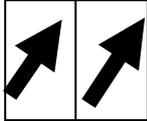
内外需ともに停滞感が続くものの、海外経済の悪化ペースの鈍化や急減産による在庫調整の進展を背景に、景気の悪化ペースは緩和すると予想される。



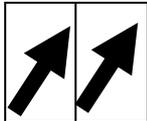
現状 6ヶ月後

(2009年4-6月期) (2009年10-12月期)

①世界経済



②輸出



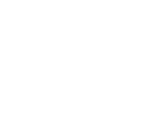
③生産



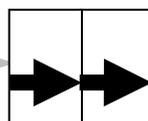
④企業収益



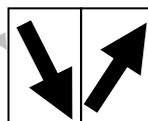
⑥雇用・賃金



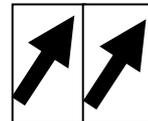
⑦個人消費



⑧住宅投資



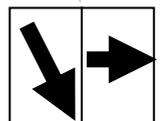
⑨公共投資



⑤設備投資



国内需要



⑩物価

(注) 矢印の方向は、当該時点でのモメンタム（景気の勢いが前期より高まる場合は↗、減速する場合は↘）を示す。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・世界景気は、先進国での金融危機の影響拡大を背景に深刻なりセッションに陥っているが、景気刺激策の実施を受け足元で悪化ペースの加速に歯止めがかかり、底打ちの兆しが出始めている。年後半には景気対策により景気は持ち直すものの、金融問題が足枷となり、2009年を通じて力強さに欠けると予想される。 ・米国経済は、信用収縮、マインドの停滞、グローバルな景気低迷等によって、2009年中は回復感に乏しい状況が続くと見込まれる。ただ、大型景気対策の効果が現れる2009年半ばごろにマイナス成長からは脱却しよう。 ・ユーロ圏経済は、信用収縮、低い水準のマインド等が景気回復の障害となることから、2009年調整局面が続くと予想される。 ・アジア経済は、金融緩和や歳出拡大を伴う内需刺激策、世界景気の底打ちを受け、2009年後半に緩やかながらも拡大ペースを速めると予想される。
②輸出	諸外国において在庫調整が進捗していることや、中国での景気対策効果等を受けて、輸出は持ち直しつつある。先行きについては、米国を中心として世界各国で実施されている経済対策の効果が顕在化すると予想されることから、輸出は緩やかに改善すると考えられる。
③生産	生産は在庫調整の進展を背景に、持ち直しつつある。先行きについては、輸出の底入れや在庫調整の進捗に伴って、生産も緩やかに持ち直すと予想される。
④企業収益	海外景気の失速に伴う売上高の減少などを背景に、企業収益は大幅な悪化が続いている。先行きについては、輸出や生産の底打ちなどに伴って、企業収益の悪化は緩和していくと予想される。
⑤設備投資	企業収益の大幅な悪化に加え、景気低迷に伴って企業の投資意欲が減退していることから、設備投資は大幅に減少している。先行きについては、収益悪化が緩和することなどを受けて、設備投資の減少テンポも和らいでいくと予想される。
⑥雇用・賃金	景気低迷や収益悪化によって企業の人件費抑制圧力が強まっていることから、雇用・所得環境は悪化している。先行きについても、収益悪化の悪影響が続くことなどから、雇用・所得環境も厳しさが続くと予想される。
⑦個人消費	雇用・所得環境が大幅に悪化していることに加え、消費者マインドも低水準での推移が続いている。家計の節約志向は強まっており、個人消費は弱含んでいる。定額給付金支給の効果から4-6月期には一時的に消費が持ち直す可能性はあるが、効果が剥落する7-9月期以降は弱含むだろう。
⑧住宅投資	雇用・所得環境の弱含み等による購入意欲の低下や、住宅価格の先安観測の強まり等を受けて、住宅投資は停滞している。また、金融機関の融資態度の厳格化による資金調達難も供給を抑制しており、先行きも低調な推移が予想される。
⑨公共投資	景気の低迷を受けて、先行き補正予算や経済緊急対応予備費などで公共事業費が積み増される可能性が高い。公共投資は今後増加していくだろう。
⑩物価	原油価格の下落を受けて消費者物価は下落している。先行きについても、前年比でみて石油製品価格の下落が続くことや食料品価格の上昇ペースが和らいでくることに加え、景気悪化に伴う物価下落圧力が強まることから、物価のマイナス幅は夏場にかけて拡大するだろう。